

# 実務実習記録による評価の行い方

兵庫県薬剤師会  
薬学教育部 理事 碓井 裕恵

## 『実務実習記録による評価項目』

薬学実務実習に関するガイドライン	薬局実務実習指導の手引	評価方法
(4) チーム医療への参画 ①医療機関におけるチーム医療 ②地域におけるチーム医療		実務実習記録 による評価
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 ①在宅（訪問）医療・介護への参画 ②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画 ③プライマリケア、セルフメディケーションの実践 ④災害時医療と薬剤師	E. 在宅医療 F. セルフメディケーション G. 地域で活躍する薬剤師	

## 振り返りレポート→評価（実習生の体験）

体験した内容  
実習で深めることのできた能力  
実習で不足していると感じた能力

《参考》  
「薬局実務実習指導の手引」の「実践編 Ⅲ」  
…「領域EFG」レポートの様式例

2

実習生→「自ら考える努力」 指導薬剤師→「場」の提供

1週目から「場」で実践を繰り返し→学生は自ら気付く

**実践の場→1分間指導法**  
**日々の日誌→PNP**

評価→  
「ある程度業務に関わることができている」と判断できた時点（週の振り返りレポート）

参考 《1分間指導法》

ステップ1…学習者の考えを聴く  
ステップ2…学習者が述べる根拠を聴く  
ステップ3…一般論を示す  
ステップ4…できたことを強化する  
ステップ5…誤りを正す  
ステップ6…さらなる学習を勧める

《PNP》

ポジティブ・ネガティブ・ポジティブでの  
フィードバック法

3

《例》実際の薬局での「在宅医療」と「災害時医療」の実習評価

# 『薬局における在宅医療関連業務』

～「地域におけるチーム医療」・「在宅（訪問）医療・介護への参画」～

## 実習の目標

4

患者やその家族と適切なコミュニケーションをとりながら、  
患者のナラティブに配慮し、  
人生観や価値観を尊重したケアのあり方を考慮した上で、  
医師をはじめとした多職種との連携の中で適切な薬物療法を  
実践できる。

## ポイント

1. 早期から繰り返し在宅訪問
2. 実習生の行動や考え方の変化
3. 実習生のレポート
4. 振り返り（省察）
5. 次への課題等を分析

不足していると感じた能力・・・領域A～Dのどの部分？

省察→学び→試行→経験

5

- 参考
- A 保険調剤ができる《医薬品の調整》
  - B 保険調剤ができる《処方監査・医療安全》
  - C 保険調剤ができる《服薬指導》
  - D 処方設計と薬物療法《薬物療法の実践》

## 1週目 振り返りレポート（抜粋）

### 実践できたこと

- <投薬>
  - ・笑顔で対応する
  - ・薬の説明
- <在宅>
  - ・笑顔で挨拶する
- <その他>

患者さんと接する「場」、  
在宅訪問の「場」を  
1週目から提供

在宅医療に  
興味を持ってもらう

6

### 今週できなかったことに対する改善策

- ・開いた質問  
→空気を読みながら積極的に聞く
- ・薬の説明以外の服薬指導  
→何を伝えるべきなのか事前にしっかり考える

## 2週目 振り返りレポート（抜粋）

### 実践できたこと

- <在宅>
  - ・血圧を測る。

多職種連携の「場」

### 理解できたこと

- <在宅>
  - ・1人の患者さんに関わっている医療従事者各々に薬を渡して服薬管理することもある。
- <その他>
  - ・サービス担当者会議とは

7

## 3週目 振り返りレポート（抜粋）

### 今週できなかったことに対する改善策

- <投薬、投薬練習>
  - ・違う病院で同じ作用の薬が出ていた時、併用は大丈夫なのか調べていなかった。
  - 併用薬があれば必ず調べる。

自分から行動を起こさせる為には  
薬局内での日常業務がまだまだ不足

日薬手引 A  
「医薬品の調整」

日薬手引 B  
「処方監査・医療安全」

#### 4週目 振り返りレポート（抜粋）

##### 実践できたこと

<在宅>

- ・ 血圧や体温等をきちんと測る。
- ・ 筆談の方とデイサービスの事などをお話しすることが出来た。

**さらにステップアップするために  
薬局内での「服薬指導」のSTEP4  
「個々の患者の視点にたった服薬指導」を目指す！**

##### 理解できたこと

<在宅>

- ・ 報告書の書き方
- ・ 認知症の患者さんは、海馬での記憶機能は失われるが、その横にある扁桃体での感情の記憶は残っているため、顔や名前は忘れられたとしても、「この人好きだな」とか「怖くないな」という感情をもってもらうことが大切。

「気付き」

<その他>

- ・ 疑義照会のやり方

##### 今週できなかったことに対する改善策

<在宅>

- ・ 自分からあまり話さない患者さんと会話することが出来なかった。
- 昨日何をしていたのか等、1つでもいいから話してみる。

8

#### 5週目 振り返りレポート（抜粋）

##### 理解できたこと

<在宅>

##### ①感じたこと

→信頼関係が本当に大事だと感じた。

安心感を与えられるような態度や表情、声が重要だと思った。

他愛もない会話をすることも必要だと感じた。

そこから服薬指導のヒントや他の職種の方との連携に必要なことが得られると思った。

薬剤師による管理が本当に大事なんだなと改めて感じた。

##### ②出来たと思えたこと

→血圧、体温、SPO2、脈拍の測定をスムーズに出来るようになった。

→患者さんとのコミュニケーションがまだまだ

食事・運動・睡眠・排泄等の情報も患者さんの生活を知る上では欠かせないこと

##### ④在宅と普段の業務の違いについて分かったこと

→ケアマネージャーや訪問看護師等たくさんの医療従事者が関わっているため、細かい報告や連携がより必要であると分かった。

**D「薬物療法の実践」について  
実際に薬剤師が行っているところを  
見せてみる**

9

## 6週目 振り返りレポート（抜粋）

実践できたこと

<投薬、投薬練習>

- ・処方からどんな病気なのか  
考えることが出来た。

<在宅>

- ・患者さんに合った薬情を作るために  
必要な情報を聞くことが出来た。

<その他>

- ・朝、外で待っていた患者さんと  
少しお話することが出来た。

10

## 7週目 振り返りレポート（抜粋）

「ナラティブに基づいた  
医療・ケア・支援」

理解できたこと

<在宅>

- ・在宅を行う際、最初に契約書によって契約を行う。
- ・今週の在宅での感想

自分で作った薬情を渡しました。1から全部作るのは初めてでした。本当にたくさん悩みました。

いろいろ観察したり聞いたりして自分なりに精一杯考えた。

患者さんにお話しして説明をすると、本当にすごく喜んでくださって、今まで聞いたことないお話をしてくださり、少し心を開いてくださった気がして嬉しかったです。

この経験を通して、私のやりがいはこの瞬間に感じると改めて思いました。

誰かのために役に立ちたい、喜んでもらいたいと思って一生懸命行動して、それが伝わった時、その方から感謝の言葉を言ってもらえたり表情を見れると、達成感と嬉しさで胸がいっぱいになります。

このような瞬間をたくさん感じられるように、

**患者さんのことを常に考え、自分の考えをしっかりとった芯のある薬剤師になります。**

11

## 8週目 振り返りレポート（抜粋）

### 理解できたこと

<在宅>

- ・居宅療養管理指導の契約

<その他>

- ・調剤報酬
- ・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）=人生会議

**処方監査・疑義照会・多職種への  
情報提供について  
意識した実習を心がけるよう、  
薬局内の薬剤師にも周知**

12

### **D「薬物療法」の**

**STEP3「基本的な評価と提案」を行えるようになるために**

**STEP4「経過に応じた対応」を念頭に置いた実習が必要**

## 9週目 振り返りレポート（抜粋）

### 実践できたこと

<在宅>

- ・生活指導を1つすることが出来た。

<その他>

- ・疑義照会した。
- ・患者さんの併用薬や問診票の入力をした。

### 理解できたこと

<在宅>

「また来週も来てね」や「いつでも家おいで」という風に言っていたできるようになりました。それが嬉しくて、もっと患者さんのことを見ようと思い、最近は食事や運動のことも聞いたり、部屋に置いてある食べ物を少し見させてもらってどのようなものを食べているのか等も確認するようにしています。しかし、まだ薬のことは薬情の説明をして以来自分から確認をしたり出来ていないと思うので、残りの期間で低血糖や副作用の確認等、薬物療法に関してもっとしっかり関わっていきたいと思います。

13

## 10週目 振り返りレポート（抜粋）

### 実践できたこと

<在宅>

- ・患者さんの減薬について提案
- ・患者さんに確認しようと思っていたこと（低血糖症状の有無、食事、浮腫みの有無、運動等）を全部聞くことができた。

### 理解できたこと

<在宅>

- ・減薬を考えることは薬剤師の重要な役割
- ・末期がん患者さんの対応

14

### 今週できなかったことに対する改善策

<在宅>

- ・減薬に対してどうしたらいいのかもう少し考える。
- 検査値も見て検討する。

①振り返りレポート

②不足部分を一緒に確認

③課題(ヒント)

④ステップアップ

**節目節目を見逃さず、  
実習生とともに考え、  
「評価」することが重要**

## 『災害時医療』

～「地域におけるチーム医療」・「地域保健」・「プライマリケア」～

### 学習の目標

地域住民の衛生管理、疾病予防や健康管理のアドバイスをはじめ、学校薬剤師業務等、地域で活躍する薬剤師の役割・活動について体験を通して学ぶ。  
また、災害時における薬剤師の役割について、討議や模擬体験を通して学ぶ。

### 災害時医療の討議の「場」

15

#### 1回目（5週目）

##### 《感染予防対策》

- ・滅菌・殺菌・除菌・・・言葉の違い・消毒薬の種類（使用濃度例）・用途別分類
- ・災害時の感染予防の必要性・・・身近なものでの消毒薬の作り方

#### 2回目（9週目）・・・事前課題あり

##### 《薬事トリアージとは》

- トリアージ区分・イメージ・バイサルサイン・フィジカルアセスメント・問診（LQQTSA）・災害処方箋等



## 1回目《感染予防対策》

- ・滅菌・殺菌・除菌・・・言葉の違い・消毒薬の種類（使用濃度例）・用途別分類
- ・災害時の感染予防の必要性・・・身近なものでの消毒薬の作り方

### 理解できたこと

<災害について>

①市販で売っている消毒薬を詳しく見たことがなかったため、それぞれにちゃんと使い分けがあることを恥ずかしながら初めて知った。薬剤師だからこそ裏の成分表示を見て、しっかり理由も患者さんに説明できなければいけないと思った。特に災害時は、感染症が広がりやすいため、正しく使うことが大事だと思った。

②ペットボトルで消毒薬を作る方法等、災害時で普段のように薬が使えない場合の対処法の知識も身につける必要がある。

③次亜塩素水は、塩化ナトリウム水溶液を電気分解するなどして作られたもので、ウイルスの消毒目的で使われる。次亜塩素酸ナトリウムは、ハイターの原料である。塩素系漂白剤等を希釈して作られたもので、ウイルスの消毒に使われている。非常に強いアルカリ性。

④災害時は、医師、看護師、薬剤師、ロジスティクス（通称ロジ）がチームになる。

被災者の方々はとにかく不安だと思うので、迅速に診療所や薬局を立ち上げ、正確な情報と薬を提供することで、少しでも不安を和らげられるよう行動しなければならない。

チームの連携がより求められる。

★ロジスティクスの業務★

1回目では主に知識の確認

16

## 2回目・・・事前課題（被災地内の保険薬局勤務薬剤師として、災害に備えて準備しておく事は何か・災害が起きたときに何ができるのか） 《薬事トリアージとは》

トリアージ区分・イメージ・バイサルサイン・フィジカルアセスメント・問診（LQQTSA）・災害処方箋等

### 理解できたこと

<災害講義>

★事前に自分で考えたこと★

①災害に備えて準備しておくこと

- ・消毒や包帯、ガーゼ等の応急手当の使われるものの在庫確認
- ・災害が起きた時のマニュアル作成・確認
- ・周辺の病院や薬局との連携
- ・災害時に遠方の薬局や病院から薬等を送ってもらうためのシステム作り

★学んだこと★

- ・通常の業務と災害時での業務は基本的に同じ対応 ・普通の天秤等、災害時に使うことになる道具
- ・お薬手帳は自分の身を守るという意味でもとても大事!
- ・被災地が求めるニーズと外が思っているニーズが違うと、必要でないものを送ってしまったらして無駄になることがあるため、情報発信が重要。
- ・薬事トリアージがあることを初めて知った。薬を渡すなら3日くらい。
- ・近隣の病院の先生と、疑義照会でできないときの対応等細かく話しておく。

★薬剤師として出来ること★

①なるべくいつもと同じような対応・処方提案ができる ②患者さんの薬以外のことも含めて全部見る ③衛生管理の徹底

★まとめ★

災害時は、電気が通らなったり普段と状況は違ってくるが、薬剤師の業務としては大きく変わらない。

患者さんから正しく情報を聞きとり、正しく処方提案し、理解できた上で服薬指導を行う。

災害時に出来るだけ普段と同じような対応をするためにも、日頃から1つ1つ丁寧に患者さんと接していくことが大事だと思った。

### 実習生自身で考察→災害時の薬剤師の役割

②災害が起きた時にできること

- ・たくさん送られてくる薬の整理・管理
- ・衛生管理(トイレ・水・感染症)
- ・手洗いうがい、消毒の徹底  
(特に夏は食中毒、冬はインフルエンザ注意)
- ・持参薬、併用薬、持病等の確認

17

## まとめ

**日誌内容** この1日で実習したこと及び考えたことを箇条書きで記入

- ①出欠状況・1日のスケジュール・場所・関わった疾患とその人数・服薬指導を実施した疾患とその人数
- ②具体的な実習内容
- ③実習に関する能力（実習生が選択）・実務実習記録による評価項目（実習生が選択）・独自評価
- ④実習にて達成できなかった点（次回への反省・改善点）・添付資料・薬剤師のコメント

**振り返りレポート** この1週間で実習したこと及び考えたことを箇条書きで記入

- ①実習したこと
- ②理解（できたこと・できなかったこと）
- ③実践（できたこと・できなかったこと）
- ④今週できなかったことに対する改善策
- ⑤施設あるいは大学に伝えたいこと
- ⑥薬剤師のコメント
- ⑦大学教員のコメント

18

### 毎週の振り返りレポート（実務実習記録）

「できなかったこと」→課題（不足部分）→分析→「場」を提供→レポート確認（毎週繰り返す）